

【平成30年度 帯広市森林整備計画実行管理推進チーム会議 会議要旨】

日時 平成31年1月29日(水) 13:30 ~ 15:15

場所 帯広市役所 10階 第5会議室

出席委員 久保 チーム長, 山下 副チーム長, 重光 委員, 堀井 委員, 姫野 委員,  
大上野 委員, 原田 委員, 野田 委員, 藤田 委員, 大坪 委員, 五十嵐 委員,  
春日 委員, 岡崎 委員, 荒川 委員, 赤坂 委員

会議式次第

1. 開会

久保 チーム長 より

2. 挨拶

久保 チーム長 より

3. 議事

久保 チーム長が議長として進行

【議事内容】

(1) 森林整備計画について

<事務局> 主な変更点について、資料①に基づき説明。

アカエゾマツについて、造林ピーク時の資源が充実し、今後、利用間伐の増加が見込まれること、林業試験場より「アカエゾマツ人工林施業の手引き」の発行がされたことから、今回、施業の標準的な方法に追加したもの。

これまで、間伐の標準的な方法に密仕立ての場合も記載していたが、地域森林計画では中庸仕立ての場合のみ示されており、実際に密仕立てで収穫まで管理する林分は少ないことから、中庸仕立てのみに整理した。

<事務局> 鳥獣害防止森林区域の設定について、資料③に基づき説明。

<大上野委員> 用語の解説や図の挿入など、住民の方にわかりやすく表現したいという工夫が感じられた。

中身の話で確認したい点がある。高性能機械を主体とする林業機械の導入目標のうち(P.35)、枝打ちは人力と書いてあるが、具体的な道具を記載した方が良いのではないか。加えて、将来的には自動枝打機とあるが、本当に使用していくことになるのか、将来も枝打ち鋸と場合によっては自動枝打機も使用するということで併記でも良いのではないか。

<事務局> 市でも過去に自動枝打機を使ってみたこともあるが、操作に手間がかかってし

まい、あまり有効に使えなかった経験がある。現実的ではないかも知れないので、考えたい。

<大上野委員>P.41に「造成を進めている帯広の森」と書いてあるが、今もまだ造成を進めているのか？

<事務局>都市計画決定区域（公園の範囲）は変わっていないが、少しずつ整備を進めている状況は続いている。

<大上野委員>P.15の植栽時期の記述について、カラマツの人工林が多いと思うので、「カラマツ、その他」といった記述の方が良いのではないかと。また、植栽期間が早いものを上に記載した方が読みやすいのではないかと。

<岡崎委員>資料①の下刈り表の注釈とP.23の同箇所の記述を合わせた方が良いのではないかと。

<事務局>チェックが漏れていた。P.23に合わせて資料①を修正する。

補足だが、帯広の森は都市公園で、林業担当者は直接的には管理に携わっていないが、本市のまちづくりの特徴的な事業であり、市民の方が森林に親しんでいただく入口として機能しているということで記載させていただいている。

<岡崎委員>P.23の3その他必要な事項（1）しかないのだが。

<事務局>国から示されている章立てに沿って作っているので、このままとしたい。

<大上野委員>次の変更の際には、地域の現状や課題について具体的に記述していった方がわかりやすいと思う。森林整備計画の構成は、あれもやる、これもやるといったばらばらとした内容になっているので、市ではどうなっているからどうしていくかという細かい記載をした方が良いものになるのではないかと。

<事務局>皆さんのご意見を伺いながら次回、検討していきたい。

<司会>資料③について助言をいただくために畜大の赤坂先生に来ていただいた。赤坂先生から助言があればいただきたい。

<赤坂委員>まず、国と道の調査がいつ行われたものか聞きたい。

<事務局>国の調査は森林生態系多様性基礎調査の第4期だが、具体的な時期は不明。北海道の調査時期について照会中だが、北海道の調査は市から提出した被害報告の集約であることを確認しているので、手元のH26～H30の被害報告の内容は精査した。

<赤坂委員>第4期となるとかなり古いものになる。環境省の生物多様性基礎調査は、一斉調査が行われたのはおそらく2000年前後で、その後は、何かあった時に情報追加はされている可能性はある。北海道の調査は平成30年度までやられているということであれば、ある程度実態を拾えているとは思う。年々、シカの出没情報は増えてきており、分布が拡大していつている。ただ、平成30年までの林業被害がそれほど大きくなっておらず、山間地で影響が出ていなければ、そこから出て来て農村部まで広がるということはないと思うので、今回の設定範囲で十分と考える。

※ 会議終了後、森林の生物多様性に関する調査は、環境省が実施しているものと林野

庁のものがあるとお話を伺いました。会議中のご発言は環境省の調査に基づくもの  
とのことです。

<事務局> 前回の設定時以降にエゾシカの被害が新たに増えている箇所は25, 26, 29  
林班。被害報告の内容だが、26林班はミズナラの1小班全域でつまみ食いされてい  
て、29林班は角擦りの跡が1箇所あったものを報告している。

<赤坂委員> 46、47林班に関してはどうか。

<事務局> 大きな被害箇所はほとんどない。小班全体的にやられて全滅状態になってい  
るのは59林班のキハダの小班くらい。

<荒川委員> 駆除で一番捕獲されている場所はどこか。被害の多いところで駆除が多いの  
かどうか。地図上で照らし合わせてみてはどうか。

<事務局> 市では毎年400頭近く捕獲している。捕獲場所は岩内町で多い印象がある。注  
意して見ていかなければならない気がしている。有害鳥獣駆除も担当しているので時  
間があったら400頭分解析してみたい。

<大上野委員> エゾシカの捕獲で箱わなは使わないのでは？

<事務局> 市内でエゾシカを箱わなで獲っていない。

<大上野委員> 使っていないのであれば削除した方が良いと思う。

<事務局> どういう表現にするかは悩んだが、駆除の方法についてどの方法をとっていく  
かは、猟友会との相談になるので、選択肢として排除しないという意味合いで、北海道  
から示された記載例をそのまま採用している。確かに、今は罠いわなも箱わなも全く使  
用していない。わなは、管理をどうしていくかという話もあり、そこに人員を割ける状  
況にもない。また、帯広市内の森林は、そこまで深刻な被害には至っていないので、今  
は畑に出て来たものを銃で年間400頭くらい駆除しており、400頭程度の捕獲圧  
で被害は減少傾向にある。

<赤坂委員> エゾシカ以外の被害は計画書では考えなくても良いのか。例えばウサギとか。

<事務局> ウサギの被害が全くないわけではない。ウサギが増えているような話は聞いて  
いるが、被害が広まっていったような感じは持っていない。

森林組合で何か情報はあるか。

<五十嵐委員> そんなに見受けられない。

<赤坂委員> 最近、ウサギが増えてきているので気になった。

<野田委員> 芽室町ではウサギの被害がある。

<事務局> 八千代牧場の裏手にある市有林が4年前にカラマツの新植1小班を丸坊主にさ  
れたことがある。

<岡崎委員> P.39(2)、その他野生鳥獣とは具体的には何が該当するのか。

<事務局> ユキウサギくらいか。エゾシカは道内全域で被害があるので、特別に書いている。  
市内ではエゾシカ含めそんなに深刻な被害状況ではない。

<司会>他に何かないか。2月8日に議会の産業経済委員会があるので、その時に今の意見を踏まえて報告し、その後、公告・縦覧させていただく。

続いて、森林環境譲与税の用途について説明させていただく。

<事務局>昨年度も少し話したが、今年度の税制改正で森林環境税と森林環境譲与税が創設される予定。森林環境税が徴収されるのは平成36年度からだが、前倒しする形で国から市へは来年度から森林環境譲与税が入ってくる。

私有林のうち、自ら適切な経営管理を行えていない人工林の管理を優先的に実施していくよう求められる予定。

また、用途を公表することになっている。来年度、基金を設置し、これまでの林務関係予算とは区別して管理できるようにする予定。

森林経営計画に加入していない残りの3割をどう加入させるのかなど、市としてどのように使っていくのか、皆様のお知恵をいただきたい。

<司会>森林経営計画に関わりある森林組合からお聞きしたい。例えば市民の方から話を聞いているとか。

<五十嵐委員>作業員の担い手不足、高齢化、若い人たちが入ってこない等の課題がある。

帯広事業所の直営班は、冬期は仕事がなく季節雇用になっている。季節雇用で若い人たちが入って来てくれるかを考えると、通年雇用にしないと厳しい。そのためには、通年の仕事量の確保が必要である。また、チェーンソーを持って、あるいは下刈りをする、といった仕事は嫌われる傾向にあるので、重機を使った仕事が良い。若い人たちに来てもらう工夫が必要である。

<事務局>新たな作業システムの整備、購入を考える必要があるということで良いか。

<五十嵐委員>そうですね。また、技術を身に付けるための支援があると助かる。技術を持った人たちを雇用したいが、そういう人たちはある程度年齢が上の人が多い。

<司会>他に何か、困りごとなどはないか。

<大上野委員>池田町から了解を得ているので情報提供する。森林環境譲与税の用途は、町の単独事業3本立て。

- ① 未来につなぐ森づくり推進事業対象外の植栽に助成。
- ② 木材の安定供給のための弱度（20%以下）の間伐への助成。  
人工林だけでなく天然林含めて対象とする。
- ③ 既存の作業道のメンテナンス、補修の助成。

この3本のほか、スイスのフォレスターの方を招聘して人材育成のための勉強会を考えているとのこと。

<堀井委員>池田町でやりたいと考えているのは良いとして、今、話のあった用途が果たして適切かどうかはわからない。

先週、当局の地域政策課から市町村の税担当の部署へ、譲与税の法律案の情報が送られている。その中で書かれている用途は、森林の整備に関する施策と人材の育成、木材

利用生産、普及啓発等でぼやっとしている。法律上は大きな話しか書いていないので、どう判断していくのかは難しい。一方で、用途については市町村に一定の裁量があることになっており、植栽が駄目とは言えない。しかし現時点では、良いとも言えない。  
〈事務局〉担い手対策については、市としては考えていなかったが、要望があるのであれば考えないといけないと思う。

林野庁担当者からは、都市部では木材利用を促進するような事業を考えられないかと言われた。

帯広市民の中で森林所有者はほんの一部の方であり、それも所有面積5ha以下の森林所有者が非常に多い。また、森林を所有するという形では森林と全く縁のない市民の方がほとんどで、そういう方々とどう向き合っていくべきか、理解を得られる使い道とはどのようなものなのか、悩ましい。

〈大上野委員〉新たな森林経営管理制度に関する意向調査はどう考えているのか。

〈事務局〉来年度に一齐にアンケート調査実施をイメージしていたが、アンケート後の対応を考えると何年かかけて地区割りをして順番にやるなどの方が良いかも知れないと考え始めたところ。森林経営計画につないでいくために森林組合と相談しながら進めたい。

〈大上野委員〉委託で行うのか。

〈事務局〉最初の意向調査は市から郵送で手紙を送ろうと考えている。返事をいただけた方への対応には森林組合の協力をいただきたいと考えている。

〈堀井委員〉各町村で色々なパターンがあるが、帯広市ではお金の使い方に関して何処が主導するのか。税金なので、歳入は林務担当部署ではないと思う。財務主導になるのか、林務主導になるのか。

〈司会〉基金として扱う予定である。財務担当の理解がないと使えないが、林務で使い道を考えていく。

〈堀井委員〉林務だけのお金ではないという認識の町村もあるようだ。それぞれの町村の考え方によって用途は変わっていく。公園整備や教育関係など用途に木材利用が絡んでいけば良いと考えるところもあるようだ。

〈司会〉最終的に金額が大きくなっていくと、どうなっていくかはわからない部分もある。

〈事務局〉森林経営管理制度に則って市で管理していかないといけなくなると思われる森林もあり、森林整備以外の用途に振り向けることについては慎重に考えたい。

一方、木材利用の促進等については、全くアテがなく、例えば、ウッドスタートのような事業を考えるヒントがほしい。

先ほどの池田町の事業は平成31年4月からか。

〈大上野委員〉詳細についてはこれから詰めると聞いている。

6月補正で基金の提案なので、それ以後になると思われる。

<司会>他の町村の情報については、また聞かせていただきたい。

山をお持ちの荒川さんは思っているんじゃないか。

<荒川委員>特にない。

<五十嵐委員>広葉樹の間伐の補助には森林環境譲与税は使えないのか。どうしてもカラマツ優先になってしまうが、広葉樹・天然林しか持っていない人でも使える補助があると良い。

<事務局>森林組合には実際に相談が来ているのか。

<五十嵐委員>人工林を持っている組合員と天然林を持っている組合員ではやはり違う。天然林で今まで作業してなかった人にも施業が広がっていければ良い。今まではどうしても手出しが多くなり現実的ではなかったので補助をもらえれば良いかなと思う。

<大上野委員>税金なので、公平性には十分考慮をしていかなければならないと思う。

安定供給の面と資源管理の面を考えないといけない。池田町の弱度間伐については、皆伐面積を抑制したいという考えと町内の炭の生産者への原木の安定供給を目的としている。

地域の中で必要な森林整備の水準がそれぞれあると思う。今の補助でカバーできているのか、整理をした上で整備を進めていくのが良いのではないかなと思う。

整備が必要な森林はまだまだあり、整備を進めるためには人材を確保しなければならないとなれば、そのために使うという考え方もある。

ベースとなるようなデータがあってそれを基に検討していく、というのが良いと思う。

<事務局>森林整備計画について、基本的に問題ないということであれば署名していただきたい。先ほどご指摘いただいたところは修正したい。

<大上野委員>配布した資料㊦・㊧の説明。

意見・質問 → 特になし

<藤田委員>配布した資料㊨の説明。

<五十嵐委員>フェロモンはカラマツヤツバキクイムシしか寄って来ないのか。

<藤田委員>クイムシ用ではあるが、トラップにはそれ以外の虫も入っている。

<司会>全体を通して何かあれば伺いたい。

<大上野委員>これまでチームとして伐採跡地の天然更新状況の調査に取り組んできていたが、今後の方向性をお聞きしたい。

<事務局>伐採跡地の調査は中断しているが、何とか続きをやりたいと思っている。

当面は、森林環境譲与税については、皆さんにご相談しながら進めていきたい。

<大上野委員>森林整備の確保すべき水準については、いろんな考え方があると思うがそのいくつかの考え方について、今後情報提供させていただきたい。

<司会>以上で終了とする。